

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年12月9日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.72】

「さつき企画」の好業績は松崎氏息子の能力によるものか？

東労組元会長の松崎明氏は、「週刊現代裁判」での証言で、息子のA氏の「さつき企画」の取締役就任を認めたのは、A氏が「目黒さつき会館」の中に音楽事務所を持って組合歌を作ったりしてJR総連の組合との関係を持っていたこと、さらに彼が有能な人物だからだと述べた。JR総連・東労組組合員の中には、A氏作曲の組合歌のCDを購入した方も多はず。なお、西岡研介著「マンガローブ」では、元JR東労組執行委員で「さつき企画」の取締役も務めていた人物の以下の話を紹介している(p.101～)。

JR東労組組合員は約49,000人。仮に役員だけが商品を買ってもかなりの数がはげます。松崎怖さに皆、嫌でも買いますから。さらに各地本にノルマを課す。-(中略)- おまけに組合という組織を使うので、営業活動もまったくいらぬ。各地本に「さつき企画担当」の役員がいて、彼らが各支部の注文を取ってくれる。こちらはその注文に応じて、商品を送ればいだけ。要するに営業経費がまったくかからない「伝票会社」なんです。

息子の妻にも報酬！「知らない」「興味ない」と答える松崎氏

A氏は2000年3月に「さつき企画」の取締役に、2001年6月に代表取締役に就任し、2004年1月に退任した。松崎氏は「週刊現代裁判」での証言で、以下の通り、息子の役員就任中の報酬を1000万円程度、またA氏の妻も報酬をもらっていたと答えた。

(被告代理人)なぜ(A氏は)2004年の1月に辞めたんですか。(松崎)それはいろいろ騒ぎが起こされて、とくに分裂をしていったような方々が様々な誹謗中傷をやったり、検察公安部がいろいろ入ってきたということによる障害があったからだと思います。(代理人)どんな障害ですか。(松崎)それは、さつき企画にも公安がいろいろやってきて、嫌がらせ、妨害するであろうと、そういう思惑があったと思います。(代理人)まだ妨害されていなかったということですか。(松崎)だと思えます。(代理人)ところで、Aさんは、取締役になっていた期間、報酬はどのくらいもらっていたんですか。(松崎)知りません。1000万程度かも知れません。(代理人)しかし、あなたも唯一の株主なんですから、細かな日常的なことは知らなくても、役員報酬がどのくらいかということはお存じでしょう。(松崎)いや、全然興味ないですね。(代理人)興味ないじゃなくて、あなた、ご自分のことではなくて、会社に主権者ですよ、株主といたら。(松崎)はい。(代理人)その主権者である株主、しかも唯一の株主であるあなたが、さつき企画は収支がどういふふうになっているか、こんなことについては全く興味はなかったんですか。(松崎)それは、それまで社長をやっていたSという方にすべてお任せしていたからだと思います。(代理人)お任せしたのは結構なだけけれども、それと、唯一の株主としてやらなければいけない権利義務があるわけでしょう。(松崎)はい。(代理人)興味はなかったんですか。(松崎)はい。(代理人)株主としての監視も余りしなかったということ。(松崎)しておりません。ですから営業妨害をされました。(代理人)そんなことは聞いてません。Aさんは、取締役として年俸が1000万程度あったということでしょうか。(代理人)と思います。-(中略)-(代理人)Aさんの奥様は、さつき企画からAさんが取締役あるいは代表取締役になっていた期間、名目は何であれ、お金をもらっていましたか。(松崎)と思います。(代理人)いくらぐらい、あるいはどういう名目で。(松崎)知りません。全く関与していません。